２年８組　学級通信

2025 年 12 月 3 日（水）
No.141
担任　中道洋友

発表のタイトルはどう決めるのか？

今回の発表は、はじめから「聞く人」も「評価する人」も、発表をきくことが前提です。しかし、一般的な学会発表や論文では、100 以上の研究発表の中から自分の発表に興味を持ってもらって、はじめて発表をきいてくれたり、論文を読んでくれたりします。

学会に参加する研究者や論文集を読む人は、どのように「どの研究発表をきくのか」、「どの論文を読むのか」を決めるのでしょうか。大学の研究者の場合は、はじめに「自分の研究に関連しているか」「自分の研究のヒントになるのか」を判断の材料にすると思います。では、その判断の根拠をどのようにみつけるのか、それが「タイトル」です。

つまり、聴衆や読者が「自分の興味関心にあっているかどうか判断できる」ようなタイトルでないといけません。

＊＊

【タイトルの条件】

①わかりやすい

むやみに難しい専門用語を使ったり、一般的ではない言葉を使うのは逆効果です。（あえて使う場合もありますが）

②研究の内容がイメージできる

どんな研究をしたのか、何に注目したのか、どんな手法を用いたのか、結論は何か、などがイメージできると興味があるかどうかの判断材料になります。ただし、全てを含めることは文字数的に無理なので、優先順位を決めます。当然、タイトルと研究内容に齟齬があるのはダメですよね。

③研究の特徴や売りがわかる

他の研究との違いや、自分たちの研究のオリジナリティーが何かがわかると、当然興味がわきますよね。

④副題を上手に利用する

説明が長くなるときは、副題を上手に使うと良い。また、次のような組み合わせで積極的に組み合わせを用いると効果的。「大テーマ」と「小テーマ」、「序論」と「結論」、「序論」と「方法」、「テーマ」と「方法」

⑤キーワードが入っている

研究のキーワードが入っていることも重要です。記録用紙にも研究のキーワードを書いてもらうようにしていました。タイトルを決めるとき、キーワードを 3 つ程度ピックアップしながら考えることも必要です。

⑥悪いタイトルの例

・表面張力とは何か　　→何をやったのかが分からない
・洗剤と表面張力の関係　　→ちょっとましだが、で？どうなったの？結論は？

＊＊

それでは具体的な例を考えてみましょう。

例１　洗剤を用いた表面張力の変化の研究

表面張力の研究（テーマ）と洗剤（実験方法）と変化（表面張力は変化するという結論）が入っている。

例２　水に洗剤を入れるとどのように表面張力が減少するのか？

例１の発展系で、「減少」という具体的な結論が入っている。ただし、少しくどい感じもする。

例３　表面張力の測定方法の開発　～一円玉は水面に何枚浮くのか～

タイトルに「研究の目的（研究の主題）」が、副題に「研究の手法（着眼点）」が入っています

例４　水温が表面張力に与える影響の研究

研究の対象が表面張力で水温という着眼点が入っている。悪くはないが、「水温」という物理量に限定しているので、他の物理量にも着目している場合は使えない。

例５　水の表面張力を変化させる要因について　～水温、界面活性剤、油に注目して～

「例４の水温に限定」という困難を解消する例。「水温、界面活性剤、油に注目した水の表面張力の研究」のようなタイトルにすることも可能。どちらが良いかは好みの問題。

例６　水の表面張力を決定する要素の研究　～水温は本当に表面著力に影響を与えるのか～

副題がちょっと挑戦的になっています。

＊＊

【名詞で終わる？疑問文にする？】

ある探究の教科書には「タイトルは名詞で終わらせる（体言止め）」と書いてあります。一方で「疑問文にすると印象を強くすることができる」と書いてある教科書もあります。正解はないので、執筆者の好みが反映しています。僕は、どちらも使います。

では、魅力的なタイトルを考えてください！